



ヌートリアの生息状況把握と モニタリング調査

農業被害や巣穴による土手の崩壊などが問題となっている特定外来生物ヌートリアの対策を、科学的・計画的に進めるために、生息状況や被害状況の把握を行っています。

ヌートリアとは？

- 南米原産の哺乳類です。
- 明治末頃から、毛皮の採取のため持ち込まれました。
- 被害が大きいため、**特定外来生物**に指定されています。

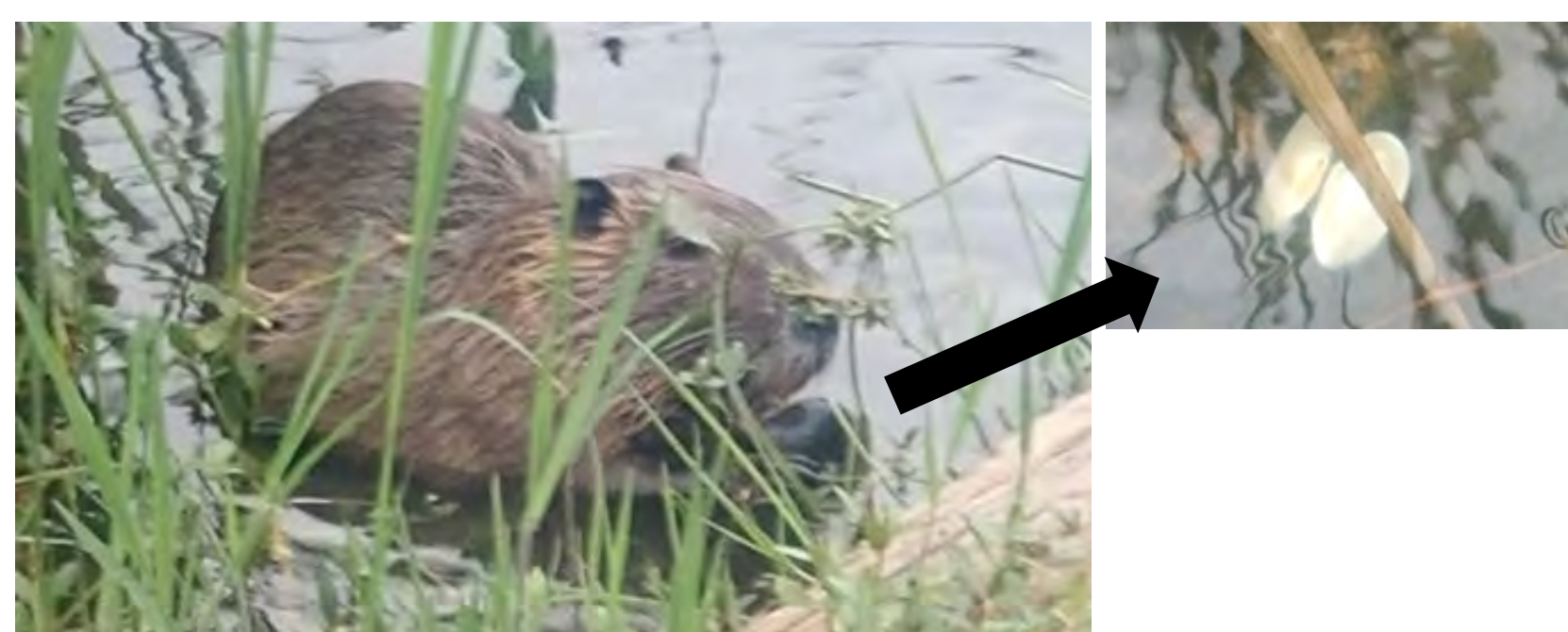


- 体重：6～9 kg
- 食性：草食性
(二枚貝の食害もあり)
- 繁殖：不定（多いと年に3～4回繁殖）
2～6頭を出産
- 生息：水辺
- 性質：泳ぎが得意



稲の食害やなぎ倒し

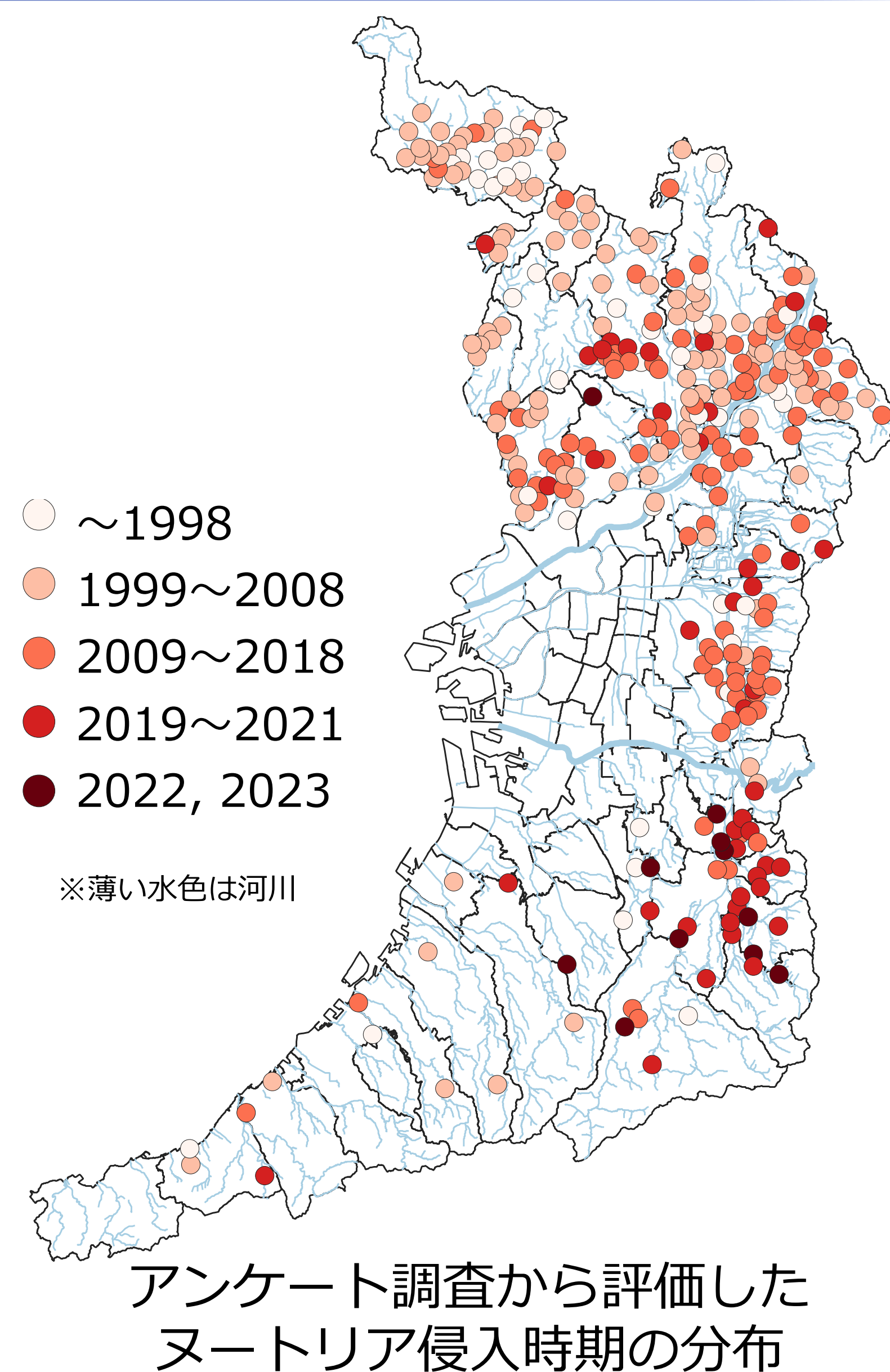
※写真提供：中部農と緑の総合事務所



淡水二枚貝の採食事例

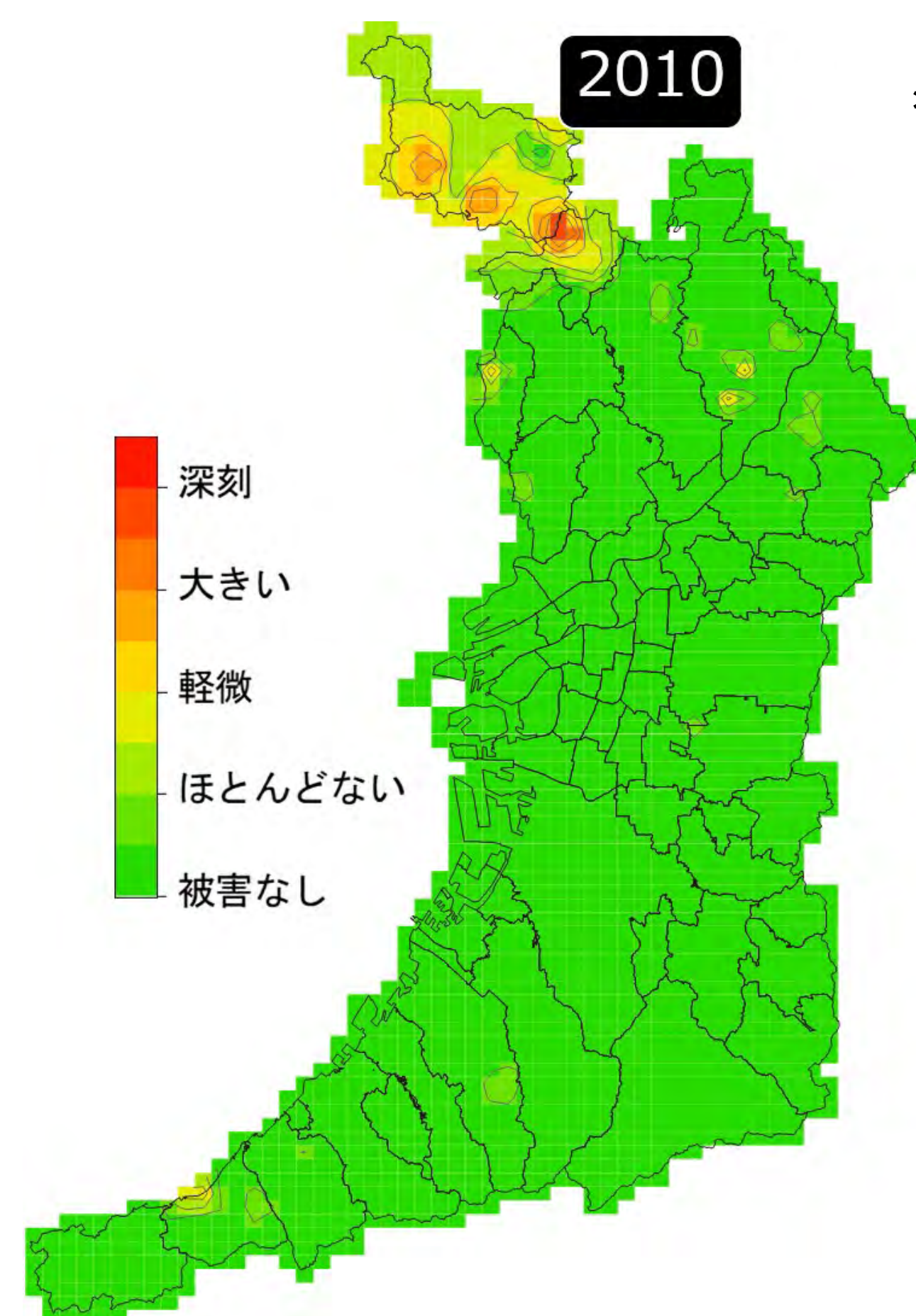
ヌートリアの生息状況

- ヌートリアは淀川周辺や北部地域を中心に、広く侵入しています。
- 2010年頃から、淀川周辺のほか、東大阪・八尾市周辺でも分布が拡大しています。
- 近年は、石川流域など南河内地域でさらに分布が拡大しつつあるようです。



農業被害の分布状況

- 農業被害は能勢・豊能町を中心に局所的に発生しています。
- 東大阪・八尾市周辺や石川流域でも、分布拡大に伴って農業が発生しています。
- 堤防や田のあぜへの被害がある地域もあるようです。



農業被害強度の分布とその推移

* 農業実行組合
へのアンケート
調査から評価



堤防被害発生地域とその推移